

いぶりぶ

NO.50
2019年 夏号

竹内 豊 副院長インタビュー
透析の現場から

ニュース
開院 15 周年記念パーティーを開催
勤続 10 年を迎えた職員を紹介します！

管理栄養士のアイデアレシピ
さつまいの簡単スイーツ
長芋とおからのショコラケーキ風

いぶり腎フレッシュマン
新人紹介

安住・石掛管理栄養士の アイデアレシピ



《材料》
さつまい 50g
砂糖 1g
牛乳 3g
パン粉 3g
バター 1g
粉砂糖 0.3g
ミントの葉 0.2g

『さつまいの簡単スイーツ』

さつまいの甘味を活かすことで、砂糖の量を抑え、手軽に作れるデザートです。炒ったパン粉が味をひきたてます。

《作り方》

- (1) さつまいを茹でやすい大きさに切る。
- (2) (1)を茹でる。
- (3) さつまいが柔らかくなったらボウルにあげてすりつぶす。
- (4) 砂糖、牛乳を加える。
- (5) フライパンにバターをあたためパン粉を軽く炒る。
- (6) まるく形を整え、熱い内にパン粉をまんべんなくまぶす。
- (7) 粉砂糖をふりかけ、ミントの葉を飾る。

栄養価
エネルギー 99.1kcal
たんぱく質 1.0g
脂質 1.2g
炭水化物 21.0g
食物繊維 13.0g

『長芋とおからのショコラケーキ風』

おからに長芋を加えることでエネルギーを抑えることが出来ました。ココア味で甘さ控えめのケーキに仕上がっています！

《作り方》

- (1) おからとすりおろした長芋を合わせる。
- (2) 熱湯にスキムミルクを溶かす。
- (3) (2)にココアを加えよく溶かす。
- (4) 荒熱のとれた(3)に卵とはちみつ、ベーキングパウダーを加える。
- (5) (1)と(4)をよく混ぜ、耐熱容器に入れ表面を平らにします。
- (6) 電子レンジ900wで約6分間加熱する。
- (7) 荒熱がとれたら(6)を型から外し、冷蔵庫で冷やし、ミントの葉を飾る。



栄養価
エネルギー 73.9kcal
たんぱく質 4.3g
脂質 7.1g
炭水化物 15.9g
食物繊維 4.8g

《材料》
おから 30g
長芋 10g
ベーキングパウダー 1g
ココアパウダー 5g
はちみつ 8g
卵 10g
ミントの葉 1g
スキムミルク 3g
水 40cc

レシピ作成：いぶり腎泌尿器科クリニック管理栄養士 安住ノリ子 石掛恵理

編集後記

今年の春号から誌面を一新し、開院15周年特集で今回は竹内豊副院長のインタビューです。
管理栄養士の「アイデアレシピ」は、当院の安住、石掛両管理栄養士のアイデアが、4月20日と27日に読売新聞社の医療情報サイト「yomiDr.(ヨミドクター)」に取り上げられたものです。
今後とも患者様のために、様々な情報を発信して行きたいと思っています。(Y)

発行：いぶりぶ発行委員会 ■発行/令和元年7月10日
■4月・7月・10月・1月の年4回発行 発行責任者：横井浩
伊達市梅本町2番地15 いぶり腎泌尿器科クリニック内 TEL:0142-21-1400
※本誌掲載の写真・記事無断転用は固くお断りします。
「いぶりぶ」のバックナンバーは、当クリニックHPでご覧いただけます。
<http://www.ibujin.com/>



新人紹介



工藤 伶 (くどう れい) 事務部スタッフ

開院15周年の記念日に新人職員として事務部医事課に仲間入りした工藤さん。伊達市の隣に位置する壮瞥町出身で、明るい笑顔がトレードマークのフレッシュマンです。
患者様に信頼され親しまれる受付スタッフを目指し、張り切った仕事に取り組んでいます。

興味は何ですか？
美味しいものが好きなので、食べ歩きをしたり地域の特産品を食べに出かけるのが趣味です。また、食べ過ぎて健康を損なわないようにマラソンや登山にも挑戦しています。マラソンはまだ10キロ走る程度ですが、「伊達ハーフマラソン」など近隣で開催される大会に出場して汗を流しています。登山は伊達紋別岳に行くことが多いです。
今後の抱負を聞かせてください。
窓口の先輩方が、患者様にとっても丁寧に優しく対応している姿を見て、一日も早く先輩方に追いつけるよう努力しなくては、と思いました。患者様への細やかな気遣いや、心のこもった対応ができる受付スタッフになれるよう、精一杯頑張ります。これからどうぞよろしくお願ひいたします。

開院 15 周年記念パーティーを開催 令和元年 7 月 6 日（土）



当クリニックの開院 15 周年を記念するパーティーが伊達市末永町のホテルロイヤルで開催されました。

役職員、関係者合わせ約 70 名が出席し、15 年の歩みを振り返るとともに、さらなる成長と発展を誓い合いました。

冒頭に坪院長が壇上に立ち、「この日を迎えることができたのも、職員や関係者の皆様、また日頃よりご理解とご支援をいただいている地域の皆様のおかげです。心よりお礼申し上げます。私個人としましては、この 15 年でだいぶ歳をとりましたが、職員の皆さんの助けも借りながら、もうひと踏ん張りしたいと思います。」と挨拶の言葉を述べました。

続いて勤続 10 年表彰では、3 名の職員に感謝状が手渡され、芳い言葉がかけられました。

和気あいあいとした雰囲気の中、竹内副院長の乾杯の音頭で祝宴が始まり、当クリニックの 15 年を振り返るスライドや動画の上映が行われました。懐かしく思い出深い場面の数々に、職員たちは笑顔を浮かべながら当時のことを語り合っていました。

2004 年 7 月 1 日の開院当初より「地域に根ざしたフットワークのよい医療」を理念として掲げ、職員一丸となってその実践に取り組んできました。

今後も地域医療の中核を担う医療機関としての誇りと責任を胸に、皆様のお役に立てるよう努めてまいります。

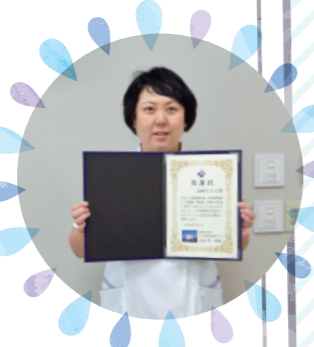


勤続 10 年を迎えたスタッフを紹介します！

山田 ちさと (やまだ ちさと)

透析室看護師

あっという間の 10 年でした。この 10 年、病棟で沢山のひとたちと出会いお世話になりました。10 年の節目、元号も変わって、新たな気持ちで 6 月からは透析室でお世話になっています。また、よろしくお願い致します。

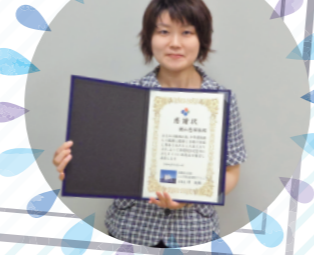


横山 恵里歌 (よこやま えりか)

事務部医事課

平成 20 年 9 月より勤めて早 10 年。あっという間でした。当時は日に日に携わる業務が増える中で、毎日必死だったことをよく覚えています。そんな私が勤続 10 年を迎えられた事は、今までご指導いただき、困っている時にはすぐに手を差し伸べてくださる諸先輩方、そしてたまに私をサポートしてくれる頼もしい後輩たちのおかげです。

これからも、初心を忘れず通常業務以外にも患者様への気配り・気遣いが出来るスタッフを目指して精進したいと思います。



安住 ノリ子 (あずみ のりこ)

管理栄養士

開院 15 周年おめでとうございます。この 10 年間、勤務してこられたのも「食」に理解のある職場環境に恵まれたからだと思っております。患者様に寄り添い、喜ばれる食事の提供に今後も努力してまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。



竹内豊副院長インタビュー 透析の現場から



副院長 竹内 豊

当院の透析室は西胆振管内では最大級規模である装置数 40 台を設置し、臨床工学技士 6 名を含む 30 名の看護スタッフが治療環境を整えています。

今号では透析科を統括する竹内副院長のインタビューをお届けします。

いざり腎泌尿器科クリニックの透析治療の特徴・強みについてお聞かせください。

まずひとつは、シャントの管理を大切にしていることです。

当院では、透析の穿刺については基本的に全て私が行っています。私が不在の時には仲山副院長が行ないますので、ほぼ全ての患者様に対し医師が穿刺をしています。

穿刺というのは一回につき 2 本の針を刺しますが、採血や点滴に比べかなり痛いんです。一般的に刺し直しも多く、何度も刺す

ことで腫れたり、ひどい場合にはシャントが詰まってしまうこともあります。そこで、患者様の精神的・肉体的苦痛をなくすために、医師が穿刺をするシステムにしました。患者様には安心していただけますし、いつも同じ人が刺すことで、だんだん慣れてきてほとんど一度で済むようになります。ですから当院の患者様は手がとてもきれいなんですよ。

また、看護師と技師の患者様への対応がきめ細かく丁寧であることも、当院の大きな強みです。看護師は患者様のお世話だけでなく、話もよく聞いて差し上げています。本当に良いスタッフに囲まれて仕事ができていると日々感じています。

設備については、一昨年、全ての機械を入れ替えて、「オンライン HDF」（血液透析ろ過）が全機種できるようにしました。これは大量の点滴をしなから透析を行う新しい透析法ですが、予後において患者様の生活の質をあげると言われています。

また昨年のブラックアウトでの教訓から緊急用発電設備を導入し、停電が起きても透析ができるようになりました。160 人近い当院の透析患者様への責務を全うすることができホッとしています。

透析の患者様へどのような指導をしていますか？

透析が必要となる原因として多いのが、糖尿病、慢性糸球体腎炎（慢性腎炎）、高血圧（腎硬化症）です。特にここ 10 年、20 年で高齢者の患者様が増加しており、糖尿病からくる腎症が増えているため、糖尿

ある患者様には自己管理をきっちりとしていただく必要があります。

さらに、腎不全の患者様は、脳梗塞などの脳血管障害や、心筋梗塞にかかるリスクが一般の方の約 6 倍になります。食事制限や水分制限により体力が低下することで、肺炎になる方も多いです。またガンのリスクも高くなります。

そこで、患者様には十分な説明をした上で、合併症にかからずに元気で長生きしていただくための指導を行なっています。その中で私が普段からうるさいほどよくお話しするのが、次の 3 か条です。

透析患者の長生き 3 条件

① 体重が増えないこと
水分を多く摂取してしまうと体重が増加します。そうすると一回の透析で水を多く引かなければならないので、心臓に負担がかかり心不全などのリスクが高まります。

② 透析時間を長くする（4 時間以上）
通常 3 ～ 4 時間の方が多くですが、4 時間未満の方と 4 時間以上の方では生存率に違いがあり、4 時間以上の方のほうが明らかに長生きしているというデータがあります。

③ リンを下げる
高リン血症の薬を摂ってリンを下げることで血管のダメージが少なくなり、脳血管障害などの合併症から身を守ることができます。

この 3 つを守ればかなりの確率で長生きができることが、長年のデータの蓄積から明らかになっています。

副院長のコト

副院長 竹内 豊 (たけうち ゆたか)

1967 年 3 月 28 日 札幌市出身
1996 年徳島大学医学部卒業
同年北海道大学医学部泌尿器科入局
以後、岩見沢、網走、名寄など道内各地の病院にて泌尿器科に勤務。
2002 年伊達赤十字病院泌尿器科に配属され坪院長と出会う。その手術の速さと腕のよさ、地域の人に慕われる温かい人柄に惚れ込む。
2004 年開院時に副院長に就任。
北海道民に珍しい横浜 DeNA ベイスターズファン。家族で横浜スタジアムに出かけ観戦を楽しむ。

この 15 年を振り返って、また今後に向けて一言お願いします。

医療の世界では、昨日までの常識が今日からは非常識になることがよくあります。時代遅れにならないよう常に研鑽し、最新の情報を吸収して、患者様にフィードバックしていきたいです。

技術的なことでは、人工血管の埋め込みはこれまで血管外科にお願いしていました。が、今後は徐々に当院でできるようにしていく計画です。また必要があれば「埋め込み型カテーテル」等の新しい手技も導入していきたいです。
これからも患者様ひとりひとりの思いに寄り添い、苦痛をなるべく和らげて差し上げることをモットーに治療に専念して参ります。